

# 中川石材

## 知的資産経営報告書

2012年12月建立

発想できる職人が ワケご遺族のミラーニューロンを刺激する理由

0. 本報告書の作成目的	…P 1
1. ごあいさつ ～ミラーニューロンとは～	…P 2
2. 職人と商人、職人と職工のちがい	…P 3
3. 中川石材の事業	…P 4
4. 中川石材が提供する価値	…P 5
5. 中川石材のノウハウ(知的資産)	…P 6
6. 中川石材の事業展開 ～価値創造のストーリー～	…P 8
7. 会社概要	…P13
8. 知的資産経営報告書とは	…P14

本報告書は、平成27年に創業120年を迎える石材製品製造業である弊社の墓石事業が、ご遺族のミラーニューロンを刺激する理由(ワケ)を皆様を知っていただくために作成いたしました。刺激する理由(ワケ)を知的資産経営という切り口で開示いたします。知的資産とは「財務諸表には表れてこない目に見えにくい経営資源の総称」であり、知的資産経営とは「知的資産の棚卸、強化、創造により、知的資産を経営に活かすことで、業績の安定や向上を図ること」です。

本報告書では、弊社がご遺族に提供している価値(ご遺族が弊社の魅力と感じていただいていること)と弊社の知的資産を確認し、弊社の事業を通じて価値がどのように提供されているのか、弊社の知的資産が事業内でどの様に関連しているのかを記述しております。また、これまでの事業を振り返るとともに、今後の事業展開等も記述しております。



## ～本報告書のポイント～

### 1. 職人とは

経済合理性を追求してモノをつくるのではなく、感覚的なインスピレーション(発想)や経験と知識の積み上げにより新たな伝統を生み出す人です。市場主義経済の中で経済合理性を追求してモノを売買する【商人】ではなく、特定の技術に熟練した【職工】でもありません。この【職人】の考え方が弊社の根幹にあります。

### 2. 中川石材が提供する価値

弊社が提供している価値を記述します。本報告書でいう価値とは、ご遺族の皆様が弊社に対して魅力と感じていることであり、弊社はその価値を提供しているがために支持を頂いていることができます。

事業の更なる発展のためには、弊社が提供している価値を確認し、その価値を強化する必要があります。

### 3. 中川石材のノウハウ(知的資産)

ここでは価値の源泉、すなわち競争力の源泉である知的資産を、人的資産(属人的であり、従業員が退職時に一緒に持ち出す資産)、構造資産(従業員が退職しても企業内に残り、組織に組み込まれた資産)、関係資産(企業の対外的関係に付随したすべての資産)に分類して説明します。

### 4. 中川石材の価値創造のストーリー

ここでは、弊社の価値創造のストーリーについて説明します。価値は、知的資産の相互関連や事業を通じて創造されております。はじめに墓石事業内で知的資産がどのように活用され、どのように価値を創造しているのかを記述します。

その次に、これまでの事業展開を記述し、その中で各知的資産がどのように創られ、どのように活用されてきたかを説明します。最後に今後の事業展開を検討します。

## 1. ごあいさつ

石屋は必ずしもお墓ばかりを作っている訳ではありません。しかし、最近の合理化された社会では、石も工業製品的な扱いをされ、石本来の素材感を求める場は だんだん少なくなっているように思います。

石屋の仕事も、日本庭園や寺社、お墓など、日本元来の文化に関わる物が殆どになってきたように思われます。その中でも、お墓は随時需要のある世界になります。

元々石屋は、求められる物に対し、技術によって対応してきました。しかし、最近では、お墓を作るお客様が、どんなお墓を作って良いのかよくわからないという時代にもなっております。お墓にしる、他の石の仕事にしる、石材業者には、多くの知識と経験が求められる時代になっております。お墓には「お墓のディレクター」制度という認定制度まで生まれているのが、今の石材業界の現状です。

当社は、明治28年より四代にわたり、長く続く石材業者です。多くの経験と知識の上に有る石材業者になります。また、最近の技術の変化、考え方の変化も、経験や知識との照らし合わせながら随時研究対応しております。

人はどうしてお墓を作るのか。とても難しい問題です。当社は「お墓のディレクター」制度設立当初から深く関わり、教本著者小島宏允氏の研究会にも参加し、伝統的なお墓に対する考え方や 現代におけるお墓の考え方を多く学んできました。

人が初めてお墓を作ったのは、今から5万年前の後期ネアンデルタール人からと言われています。人はどうしてお墓を作り出したか、それは、人が心を持ったからだと言われます。お墓には心が大切だということが、よく感じられます。

人間には、人に対して二つの心があるようです。ひとつは、人の喜びを見て喜びを感じる心です。もう一つは、人の不幸を見て喜びを感じる心のようです。

最近の商売中心の日本では、人との駆け引きを楽しみ、人の負け(不幸)により利益を得ようとする社会になってきております。しかし、歴史を見れば それはほんの最近(1982年からの国の方針)からのことで、つい最近までは、人に良い事をしようとする善行の歴史でした。それは、江戸時代の 日本や韓国の職業差別「土農工商」にもみられます。またそれは 5千年前のペルシャにも見られ、人間の歴史のようにも思われます。

当社では、お墓は亡くなった方や残された方の心を扱う仕事と定義しております。それぞれの心の安らぎを得られるお墓作りに、日夜努力しております。また、その結果、喜んでいただけるお客様の顔を楽しみ、日夜働いております。



中川石材  
代表 中川 洋

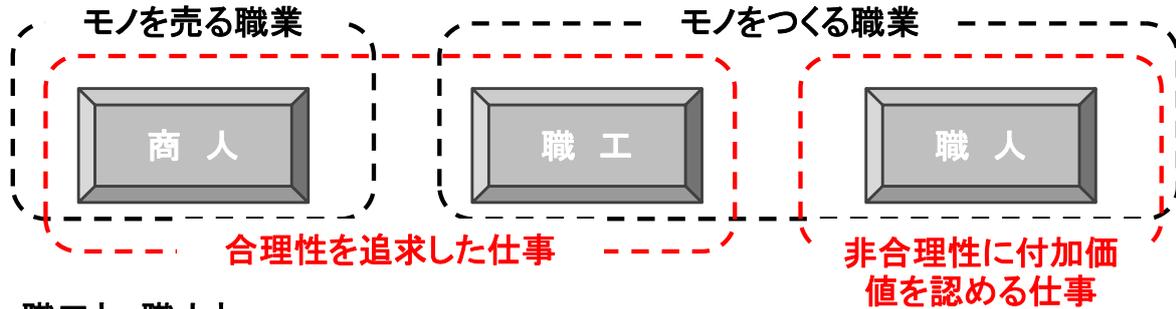
### ～ミラーニューロンとは～

ミラーニューロンとは、他人の行動を見て、我がことのように感じる共感(エンパシー)能力を司っていると考えられている神経細胞です。「他人の心を読み取る」という脳の大切な機能を支えているとも考えられております。

ミラーニューロンが活発に働いている時は、他人の考えてることがわかったり、他人と同じ気持ちになるそうです。「相手が嬉しいと自分も嬉しい」、「相手が悲しいと自分も悲しい」ということです。

## 2. 職人と商人、職人と職工のちがい

弊社が考える【職人】は、経済合理性を追求してモノをつくる人ではなく、感覚的なインスピレーション(発想)や経験と知識の積み上げによる付加価値も加味してモノをつくる人です。新たな伝統を生み出す人です。【職人】は、市場主義経済の中で経済合理性を追求してモノを売買する【商人】ではなく、特定の技術に熟練した【職工】でもありません。この【職人】の考え方が弊社の根幹にあります。



### (1) 商人と、職工と、職人と



合理性を追求してモノを売って利益を少しでも稼ぐ職業です。墓石業界の場合、合理的に製造してコストダウンを図った中国製の墓石を販売する企業です。取引のスピードや量を重視するため、顔が見えない取引を行う傾向にあります。



合理性を追求してモノをつくる職業です。墓石づくりに必要な基礎技術は4年あれば習得できます。合理化された現場では、作業が分担されており、身につける技術は限られています。特定の技術に熟練し、製造効率を高めることが職工の務めです。



合理性の追求にこだわらず、時にはひらめき～非合理的な要素を加えてモノをつくる職業です。合理化によるコストダウンはご遺族にとって価格面でメリットがあります。しかし、非合理的な要素は価値向上面でメリットがあります。非合理的な付加価値には技術だけでなく、発想や知識、経験が必要です。職人は複合的に技術を身につけ、経験を積む期間が必要です。そのため、一人前になるためには、20年間を要すると考えています。

職人は、感覚的に仕事をこなすため、顔が見えない仕事はしません。相手の立場になって、誠意をもって相手が求めるモノを話し合います。

経験豊かな仕事なら、考える間もなく身体が仕事をこなします。経験と知識のない仕事でも、インスピレーション(発想)により、仕事をこなします。インスピレーション(発想)を十分に備えた職人は、名人といわれることがあります。職人こそが、合理性と感覚的な非合理性が合わさった仕事により、新しい伝統を生み出すことができます。

弊社は、このような職人が、お墓を、喜びの共感を創ります。

### (2) 経費の内訳からみる商人と職人の違い

商人が販売する墓石の売価			
中国産既製品仕入費	文字彫り、据え付け外注費	営業費 広告費	会社利益 ※会社運営費含む
約30%	約20%	約15%	約35%

職人が製造販売する墓石の売価			
原材料仕入	加工製作	文字彫り 据え付け	営業 会社運営 会社利益
約30%	約30%	約20%	約20%

左図はあくまでイメージですが、上は商人が販売する墓石の、下は職人が製造販売する墓石の売価に対する経費や利益の内訳です。墓石造りに対する経費という観点では、職人が造る方が倍の割合です。左図は割合のため一概にはいえませんが、商人が販売している墓石の方が安価傾向であることを勘案すると、墓石造りという観点では、職人の方がお金も手間暇もかけているといえます。

### 3. 中川石材の事業

#### (1) 事業の概要

弊社は、代々石を扱った仕事を生業としておりました。初代 仁太は、凝灰石の採掘を生業としておりました。二代目 一雄と三代目 三郎は、彫刻家として活躍しておりました。現代表で四代目の洋は、石材の特殊加工と特殊設計を得意とする石屋として営業し、彫刻家としても活動しております。

弊社の事業は主に3つに分類されます。

- ① 建築・インテリア関係: モニュメントや環境彫刻やオブジェの設計施工、インテリア関係の設計施工。
- ② 墓石の製造 : 受注生産による墓石の製造。
- ③ 他社からの外注 : お墓や石工事の設計施工、蓮華等のお墓の特殊加工。



左から  
 モニュメントの仕事 金沢市民芸術村に「意志の門」を制作。  
 石建築の仕事 金沢城河北門復元工事、一之門石垣工事施工管理請負。 石川県組合代表全石工事技術責任者として従事。  
 彫刻家としての活動 国指定文化財の復元  
 第2回フエ国際彫刻シンポジウムへの出展

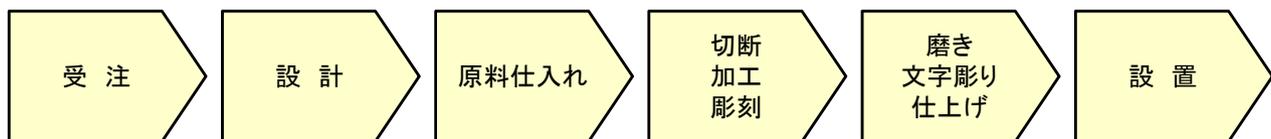
#### (2) 墓石の製造販売

現在弊社の主要事業は、墓石の製造販売です。弊社は原則国産の原材料を自社加工しております。法名や戒名を彫る前の下書きを外部の専門家に依頼することはありますが、それ以外の工程は、据え付けも含めて全て内製が基本です。中国製の原材料や部品も取り扱っておりますが、「安い物は安く、よい物は国産や自社製を」と考えております。

弊社は新聞広告や立派な展示場はなく、受注経路のほぼ100%が口コミです。地域密着・顔が見える仕事を基本としております。墓石製造の工程は以下通りです。



左: 高度な技術を要する蓮華彫り  
 中: 新たな加工技術の開発  
 右: 石の劣化実験



左: 原料山の視察  
 右: 手書きにこだわる文字堀の下書き

地震に対する安心感を高めるための設置

## 4. 中川石材が提供する価値

### (1) 中川石材が提供する価値

ここでは中川石材が故人のご遺族に提供している価値を説明します。本報告書でいう価値とは、ご遺族の皆様が中川石材に対して魅力として感じていただいていることであり、中川石材はその価値を提供しているがために、自社の事業に意義を持たせることができます。

価値は、弊社の経営理念、ビジネスモデル(事業)、知的資産、有形資産がそれぞれに作用しあって複合的に創り出されております。本報告書では、その過程を価値創造のストーリーと呼びます。

中川石材が創造している価値は以下の3種類と考えられます。

- A. ご遺族様が故人と喜びを共感できること**    **B. 地震に対して安心できること**    **C. 耐久性が高いこと**



**A. 故人との喜び共感**

「〇〇さん、立派なお墓立てていただいて、うれしそうやわ〜。」  
 そう感じていただけるお墓を提供できることが、弊社の最大の価値です。弊社が提供したお墓に入って故人が喜び、それをご遺族が我がことのように喜ぶ。故人とご遺族との間で喜びを共感していただくことが、お墓を建てることの大きな意義と考えております。

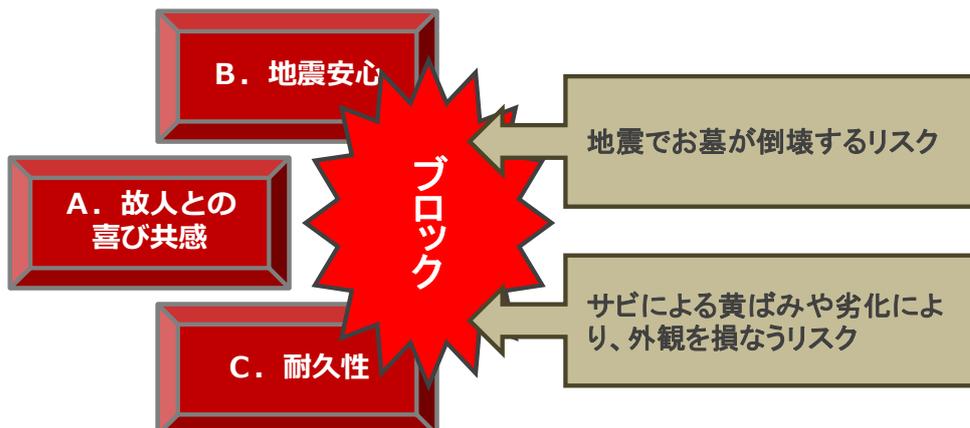
**B. 地震安心**

日本列島は地震列島であり、先の東日本大震災でも多くの方が被災しました。お墓は故人と喜びを共感できる場です。そのお墓を地震で失うことの悲しみは、生きていた親族を失うことの悲しみと比較して劣りません。そんなお墓を地震の揺れから守って地震に対する安心できる据え付け工事を施せることが、弊社の価値のひとつです。

**C. 耐久性**

耐久性が高いお墓とは、サビによる黄ばみや劣化が少ないことを意味します。黄ばみや劣化はいずれ生じますが、遅らせたり、程度を抑えることは可能です。弊社は石の耐久性を高めて黄ばみや劣化を抑え、外観を損なわないようにします。

### (2) 各価値の役割



弊社が提供する最大の価値は、Aであり、この価値を提供しているからこそ、弊社の存在意義があると言えます。一方、他のB、Cは、Aを損なうリスクからAを守る役割を担っております。Aの価値では外観が重要です。その外観をBとCが守ります。Bは、喜びの共感を地震で失わないための価値です。Cは、外観が損なわれことによる残念という思いを、故人とご遺族の間で共感させないための価値です。

## 5. 中川石材のノウハウ(知的資産)

知的資産とは、「従来のバランスシート上に記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である、人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランド等)、組織力、経営理念、顧客とのネットワーク等、財務諸表には表れてこない目に見えにくい経営資源の総称」(独立行政法人中小企業基盤整備機構)を指します。

企業は自社の知的資産を連鎖的に活用して価値を創り、それを顧客に提供して利益を上げています。それゆえ、知的資産は価値創造のストーリーを形成する要素ともいうことができます。

ここでは、知的資産を

1. 人的資産(属人的であり、従業員が退職時に一緒に持ち出す資産)
2. 構造資産(従業員が退職しても企業内に残り、組織に組み込まれた資産)
3. 関係資産(企業の対外的関係に付随したすべての資産)

に分類してご紹介します。

### (1) 人的資産

分類	番号	資産名	説明
人的資産	①	彫刻家としてのデザイン力	金沢市立美術工芸大学 美術工芸学部 彫刻専攻を卒業後、国内外を問わず多くの作品を創り続けることで磨かれた感性によるデザイン力。受賞歴も多い。インスピレーション(発想)の仕組みにまで自ら踏み込み、常に発想し続けることにより、デザイン力は強化されてきた。ここでいうデザイン力とは、例えば同等の規格でも立派に見せることを可能にするノウハウである。
	②	設計のノウハウ	高校、大学時代に学んだ設計の基礎を基に、自らの知識と経験をフル稼働させて設計する。石川県石材組合連合会代表石工事技術責任者として金沢城河北門復元工事の石垣の設計を任せられる程の設計力。
	③	計算力	原材料をロスなく活用することや、外観の高評価を得るための寸法どり等の定量的な計算力だけでなく、ご遺族との打ち合わせでの会話や段取り等定性的な計算力も持ち合わせている。
	④	加工のノウハウ	大学在学中から35年以上にわたり、常に自らの手で加工を施してきたことにより磨き上げてきたノウハウ。墓石に付属する蓮華等を彫れる県内でも数少ない技術力。
	⑤	磨きのノウハウ	ピカピカに過度に華美に磨くのではなく、しっとりとした艶を出す磨きの技術力。磨き工程で熱を加えるとヒビが入りやすくなるが、ヒビが入らないような磨きの技術力。
	⑥	石に関する知識	代々石を扱うことを生業としてきたことや、日本石材産業協会会員や石川県石材組合連合会会員として全国を巡って視察することで身につけた知識。日本石材産業協会が認定している「お墓ディレクター1級」である。なお、「お墓ディレクター制度」の立ち上げにも参画している。
	⑦	設置に関するノウハウ	地面を踏むことで地盤の固さを知り、その固さに応じて据え付け工事をする事等ができるノウハウ。社団法人日本建築あと施工アンカー協会が認定している「第1種あと施工アンカー施工士」を保有している。この資格の更新研修を活用して、耐震に関する知識等を補充している。

弊社の人的資産は、代表である中川洋に属しております。彫刻家としてのデザイン力をはじめ、墓石製造設置の各工程において高度なノウハウを保有しております。

彫刻家として培われたインスピレーション(発想力)と、複数の工程や他の石工事に携わることができ、長年の経験から培われた技術力を備えた中川洋は、職人と呼ぶにふさわしい能力を備えております。

人的資産の裏付けのひとつとして、資格があります。中川洋は、1級技能士(張り石、加工、石積み)、お墓ディレクター1級、造園施工管理技術士2級、あと施工アンカー1級等の資格を保有しております。

## 5. 中川石材のノウハウ(知的資産)

### (2) 構造資産

分類	番号	資産名	説明
資 構 造	⑧	原料山の視察	年1回全国の原料山を見学に行くこと。岩盤の状態を確かめることにより、必要な原料を切出す岩盤を指定し、良質な石を確保している。
	⑨	地震に対する安全性を高める考え方	1995年にあった阪神・淡路大震災以降に研究を進めた地震に対する安全性を高めるための基本原則。

他の職人的産業と同様に、弊社も構造資産は多くありません。しかしながら、他の石材関連企業との差別化要因に十分なりうる知的資産を保有しております。

競合の石材関連企業は、原料や既製品の多くを中国から仕入れております。そのため現地を視察することはほとんどありません。国産の原料を用いている場合でも、現地を視察する企業はほとんどありません。原料を採掘業者に任せるのではなく、自らの目で原料の状態(サビ、硬さ、鉄分・水分の含有量、ヒビ等)を確かめることは、より良いお墓をつくるために必要なことです。

家などは耐震構造をもって建築許可が下ります。お墓の場合、建築許可というものが不存在のため耐震構造も確認されず、他の建築業界からみたら考えられない耐震工事を施しております。弊社は、他の建築関係者がみてもおかしくない地震対策を施しております。それを可能としているのは、技術もありますが、お墓の地震に対する安全性を高めることに関する研究の蓄積があることです。

### (3) 関係資産

分類	番号	資産名	説明
資 関 係	⑩	原料採掘関連企業との関係	比較的良質な石を安価に提供して頂ける、東北地方にある国内最大級の墓石企業。
	⑪	書道家との関係	通常の書道とは異なり、彫りやすい文字で戒名等を描いていただける方との関係。某書道団体の代表を務めている。
	⑫	業界関係者との人間関係	同業者や関連団体(日本石材産業協会、石川県石材組合連合会、能美市石材組合)との関係。

弊社は原則すべての工程を内製化しているため、お墓の製造設置において外部との連携はほとんどありません。しかし、仕入と戒名等の下書きについては外部との連携が欠かせません。

また、様々な事業機会を与えていただいたり、技術の研鑽や理論固めの機会を与えていただく団体とは懇意にさせていただいております。自らの世界のみでは成長はあり得ません。各種団体の催し物に参加して、能力の向上に努めております。

どの産業界でも同様のことですが、業界内での良好な人間関係は重要です。石は重いため、重機が発達する以前は助け合いによる労働が不可欠であり、良好な人間関係がありました。また、原料山に眠る石の状態は、加工途中で状態が明らかになることがほとんどです。そのため、石採掘業者への信頼が欠かせません。このように人間関係を重要視する業界なのですが、【商人】の出現により以前ほど良好な関係を築きにくくなっております。しかしながら、弊社では依然と変わらぬ人間関係を形成しております。

## 6. 中川石材の事業展開 ～価値創造のストーリー～

ここでは、弊社の価値創造のストーリーについて説明します。弊社の価値は、事業内で知的資産が相互に関連し、または事業内の工程に影響を与えることで事業を通じて創造されております。

はじめに、墓石事業内で知的資産がどのような活用され、どのように価値を創造しているのかを説明します。その後、これまでの事業展開を記述し、その中で各知的資産がどのように創られ、どのように活用されてきたかを説明します。最後に今後の事業展開について記述します。

### (1) 知的資産、価値、工程の関係

分類	番号	資産名	影響を及ぼす価値			影響を及ぼす工程					
			故人との喜び共感	地震安心	耐久性	受注	設計	原料仕入れ	切断加工彫刻	文字彫り磨き仕上げ	設置
人的資産	①	彫刻家としてのデザイン力	◎			◎	◎	◎	◎	◎	
	②	設計のノウハウ	○	◎		○	◎	○	○		◎
	③	計算力	○			○		○	○		
	④	加工のノウハウ		○			○		◎		
	⑤	磨きのノウハウ			○					◎	
	⑥	石に関する知識	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○
	⑦	設置に関するノウハウ	●	●		●	○		○		◎
資産構造	⑧	原料山の視察			◎	○	○	◎	◎	◎	
	⑨	地震に対する安全性を高める考え方		◎		○	○				◎
資産関係	⑩	原料採掘関連企業との関係			◎		○	◎	●	●	
	⑪	書道家との関係	●			●				◎	
	⑫	業界関係者との人間関係		○	◎			◎			

上表は、各知的資産が、価値や工程にどの程度影響を与えているかを示した表です。◎○●の順番で影響が大きいことを表しております。横軸を見た場合に多くの◎を持つ知的資産ほど、弊社にとって重要な知的資産といえます。縦軸を見た場合に◎が記されている知的資産は、その価値・工程にとって重要な知的資産となります。

#### ① 知的資産と価値の関係

ここでは、価値が影響を受けている主な知的資産について説明いたします。

##### A. 故人との喜び共感

この価値に最も影響を与えているのは、デザイン力(①)です。大きな喜びを得るためには、外観が重要視されます。その外観を決めるのがデザイン力(①)です。加工や磨きの技術力(④、⑤)も重要ですが、それはデザインを表現するための手段であり、デザインに必要な石の知識(⑥)の方が重要度は高いと考えられます。

##### B. 地震安心

地震に対する安心を高めるためには、他の建築関係者からも認められ地震に対して強い設計(②、⑨)が必要不可欠です。地震に強い設計を検討する際は、設計(②)だけでなく、石自体の知識(⑥)や石材の加工に関するノウハウ(④)を熟知している必要があります。

施工に関して、基礎は専門家の土木関連業者にお任せして、弊社がアンカー施工を担当します。

##### C. 耐久性

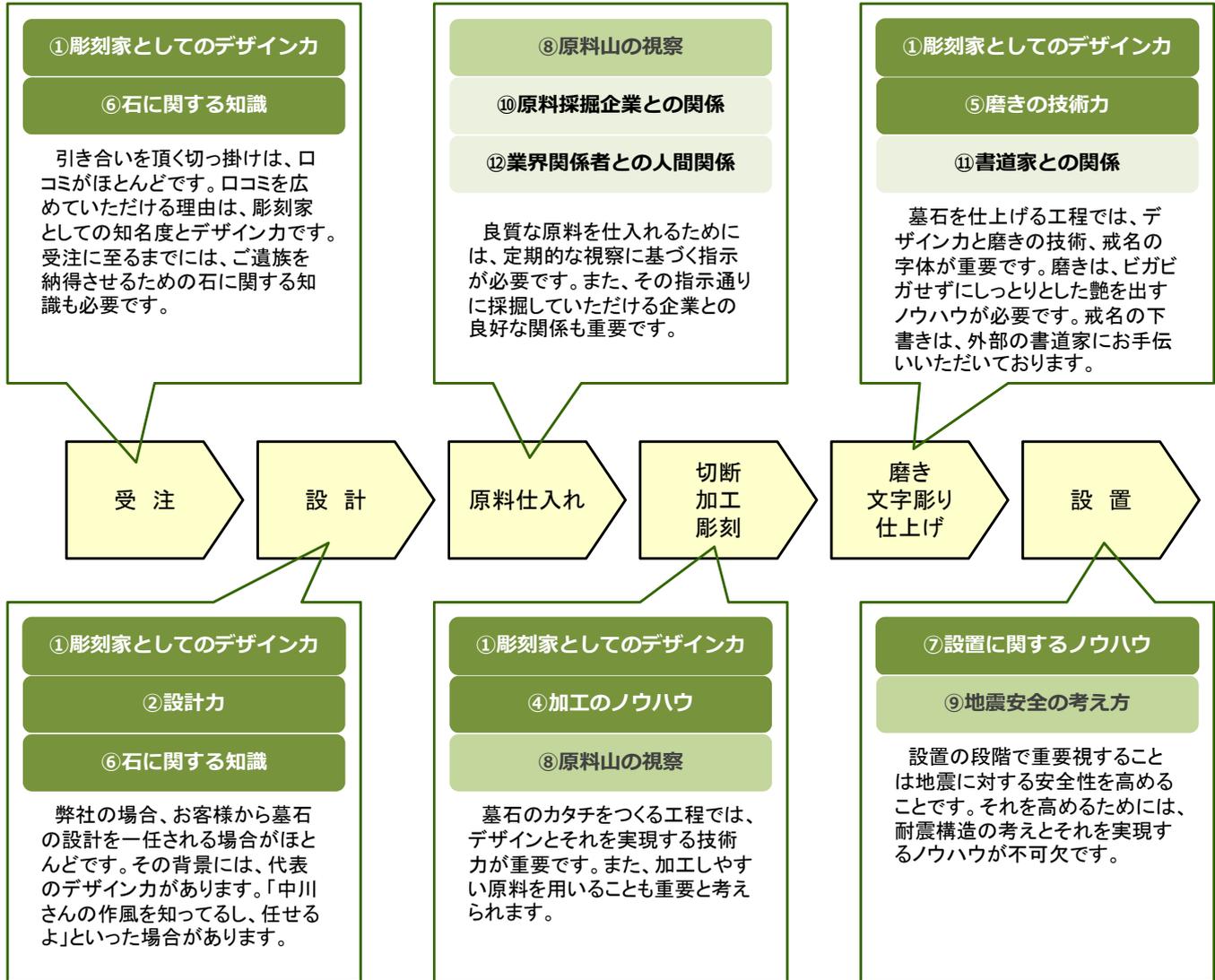
耐久性を高めるためには、第一に原料が重要です(⑧、⑩)。仕入の段階でわかる石の硬さ、含有鉄分・水分、ヒビの入り具合が耐久性に大きな影響を与えます。原料仕入れの際には、人間関係、信頼が重要です(⑫)。表面からでは判断が困難な石の状態を、石材採掘企業の言うことを信じて、自らのノウハウ(⑥)も含めて判断します。

良質な原料を仕入れた後は、サビの原因となる細かなヒビを入れない技術(⑤)が重要です。

## 6. 中川石材の事業展開 ～価値創造のストーリー～

### ② 知的資産と工程の関係

ここでは、墓石事業の各工程において、影響を受けている主な知的資産について説明いたします。



### ③ 価値と工程と知的資産の関係

ここでは、ご遺族のミラーニューロンを刺激し、それを守れる理由(ワケ)を工程と知的資産を踏まえて探ります。ミラーニューロンを刺激し、守るためには、企画と実行が重要です。

#### A. 故人との喜び共感

この価値に最も影響を与えているのは、【設計】の工程とそれにデザイン力(①)、価値を創造し高めるデザイン力に源泉となる石に関する知識です(①)。また、【設計】した結果を実現する【切断・加工・彫刻】【磨き・文字彫り・仕上げ】の工程とそれに影響を与えているノウハウ(④、⑤)も重要です。

#### B. 地震安心

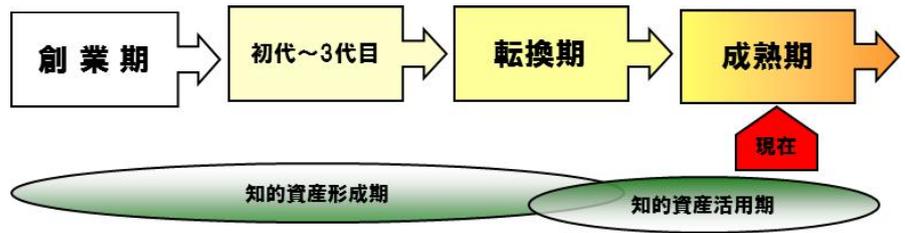
この価値に影響を与えているのは、【設計】の工程とそれに影響を与えている設計力(②)と地震に対する安全性を高める考え方(⑨)です。また、【設計】した結果を実現する【設置】の工程とそれに影響を与えている設置に関するノウハウ(⑦)も重要です。

#### C. 耐久性

この価値に影響を与えているのは、【仕入】の工程とそれに影響を与えている原料山の視察(⑧)と原料採掘関連企業との関係(⑩)です。また、耐久性を損なわない【磨き・文字彫り・仕上げ】の工程とそれに影響を与えている磨きのノウハウ(⑤)も重要です。

### (3) 事業展開

弊社は明治28年に創業し、現代表の中川洋で4代目です。4代目に事業の転換期を迎え、墓石製造販売事業を本格的に開始しました。そのため、同事業に関する知的資産は4代目以降に形成されたものがほとんどです。



ここでは、弊社の歴史と4代目になってからの事業展開について記述します。その中で各知的資産がどの様に創られ、どの様に活用されてきたかを説明します。

#### ①初代～三代目 ※番号付き下線部は前述の知的資産を示します。

平成27年で創業120年になる弊社は、石川県の語源になった石の川原 手取川のほとりに広がる能美市の一角 徳山町に明治28年に創業しました。代々石材製品を創り続ける石工職人です。

古墳が点在するこの地に、は古くから多くの職人や技術者がいたと考えられております。江戸時代には、加賀藩の文化政策もあり、モノづくり文化のレベルが高い地域だったと考えられています。九谷焼で有名な寺井町も市内にあり、この地域は今でも多くの職人や技術者が住んでいる特殊な地域であると考えられます。

中川家の本家は 江戸時代に弓矢の矢に使う竹を加賀藩に納めていたと聞きます。明治時代には彩色した土人形(素焼きの人形)を作っていたようです。

明治28年、分家した弊社初代 仁太は、このあたりで古くから採れる凝灰岩を採掘しておりました。このあたりの凝灰岩は、古くは古墳の石室の材料として用いられております。

昭和11年、家業を継いだ二代目 一雄は、石の彫刻で有名になりました。「福井県の大野伝七か 加賀の中川一雄か」といわれていたそうです。今でも、加賀市あたりまでその彫り物が多く残っています。お墓では大きな手作りの兵隊のお墓が数多く残っております。その他に石蔵や鳥居など数多くの仕事を手がけていたようです。

昭和28年、家業を継いだ三代目 三郎も、神社への奉納品や石蔵の彫り物を中心に、石の彫刻家として活躍しておりました。その彫り物は各業者の発注により県内外各所に残っています。

このようにして、中川家は代々石工職人でした。そのため、四代目の洋は、幼少期より石に慣れ親しんでおり(④加工の技術力)、石に関する知識も豊かになりました(⑥石に関する知識)。

#### ②四代目 中川 洋の業績の概要

四代目 洋は、2008年に家業を引き継ぎました。

四代目は、1983年に市立金沢美術工芸大学を卒業後しました。学生時代は彫刻を専攻し、この頃よりデザイン力や加工の技術力を磨いております(①彫刻家としてのデザイン力、④加工の技術力)。卒業後、家業を手伝う傍ら、彫刻家としての頭角を現します。1985年の北陸中日美術展の大賞受賞後、数々の賞を受賞いたしました。彫刻家としての実力が認められ、金沢市民芸術村のモニュメント「意志の門」(1997年)や金沢21世紀美術館プレ企画「25人のインスタレーション展」(1998年)等にも携わりました。四代目は、40歳を過ぎたころからメキシコやベトナムでも作品を出品しております。

四代目は、石材建築の分野でも好評をいただき、業績をあげております。2007年には、金沢城河北門復元工事一之門石垣工事の技術責任者となっております。また、耐震に関しても阪神淡路大震災以降研究を重ね、2007年と2008年には、日本石材産業協会総会にて耐震関連のワークショップの講師を担当しました。

## 6. 中川石材の事業展開 ～価値創造のストーリー～

### ④墓石製造販売業の事業展開 ※番号付き下線部は前述の知的資産を示します。

四代目が設計のノウハウを発揮したのは、金沢城河北門の石垣の設計の時でした(②)。当時のJVや業界関係者の中に石垣を設計できる者はおりませんでした。石材産業協会の関連委員会に尋ねても適任者はおりませんでした。とある縁から弊社にお声がかかり、四代目が挑戦することとなりました。四代目は設計について専門的に学んだり研究したことはなく、高校大学時代に基礎を学んだきりです(②)。しかし、職人としての経験とインスピレーションにより、設計しました。

弊社最大の価値を損なうリスクをできる限り回避するためには、地震に対して安心していただくことと、耐久性が重要です。地震に対する基本的な考え方は、1995年の阪神・淡路大震災時に研究を始め、1997年の金沢市民芸術村モニュメント制作時には、一般的な方法論として適用させております(⑨)。2008年の日本石材産業協会総会ワークショップでの能登地震の分析は、ご好評をいただきました。全国的には、弊社を耐震を専門的に研究している石材企業と思っている同業者の方も多いようですが、決してそうではありません。お墓にしろ、他の石工事にしろ、お客様が安心できる仕事ができることを重要と考えております。

耐久性の価値を高めるひとつのノウハウとして磨きがあります(⑤)。磨きの工程で、石に80℃程度以上の熱が加わると細かなヒビが生じます。そのヒビに水が染み込むとサビの素になります。そのため、磨きの工程では80℃以上の熱を加えないノウハウが必要です(⑤)。研磨機を普通に用いているだけでは80℃以上の熱が加わります。弊社は水磨きの手法等のノウハウにより、ヒビを入れない磨きをしております。

故人とご遺族が共感するためのデザインを表現するためにも、耐久性を高めるためにも、原料は重要です。弊社は、福島県と宮城県の間で採掘されている石を主に用いております(⑩)。石川県内でこの企業から原料を購入している業者は数少ないです。四代目が組合の事業で全国の原料山を視察して回った際にその企業と出会いました(⑩、⑫)。東日本では黒い墓石が主流であり、西日本では白い墓石が主流です。この企業のお客様には東日本の業者が多く、白い石の需要は多くありません。そのため、弊社は比較的安価に原料を仕入れることができます。勿論、品質は良好です。この企業以外からご提供いただく原料を確認するためにも、毎年原料山の視察に伺うようになりました(⑩)。

弊社は、上記の様に弊社最大の価値を損なうリスクをできる限り回避するための知的資産を創造し、活用しております。弊社最大の価値である「ご遺族様が故人と喜びを共感できること」に最も影響を与える知的資産は、職人としてのデザイン力です(①)。このデザイン力とこれまでの企業としての展開が相俟って、ご遺族のミラーニューロンを刺激する仕事が可能となりました。

### ⑤今後の墓石製造販売業の事業展開

今後は、デザイン性に優れたお墓をつくる習慣を全国的に築くことに注力いたします。ここでいう優れたデザインとは、芸術的センスに溢れており現代的美術館でみられる様なデザインではなく、「ミラーニューロンを刺激するデザイン」です。

弊社は、日本石塔展覧会事業協同組合に所属しております。同組合は、墓石の中で歴史的・技術的観点において最高とされる《石塔》に焦点を絞り、失われつつある日本古来の石工技術の伝承を目的として展覧会等を開催しております。同組合では今後、都市部を中心に、高級墓石を全国に広める活動を展開する予定です。ここでいう高級とは、原料による高級化ではなく、優れたデザインを創ることによる高級化を意味します。

弊社は、日本石塔展覧会事業協同組合が企図している事業と共に、デザイン性に優れたお墓、「ご遺族様が故人と喜びを共感できる」お墓を全国に普及させていきます。



左:第1回 日本石塔展覧会 優秀賞  
右:モニュメント東日本大震災供養碑として宮城県内へ寄付

## 7. 会社概要

社名	中川石材
設立	1895年(明治28年)
資本金	1000万円
所在地	〒923-1222 石川県能美市徳山町185
TEL	0761-51-4602
FAX	0761-51-4602
E-mail	nakagawa@sekicho.com
URL	<a href="http://www.sekicho.com/index.html">http://www.sekicho.com/index.html</a>

### ◆沿革

1895年(明治28年)	中川石材初代中川仁太が本家より独立。 近郊で古くから採れる凝灰岩を採掘。
1936年(昭和11年)	中川石材二代目中川一雄継承。 石の彫刻家として南加賀全体に有名になる。
1953年(昭和28年)	中川石材三代目中川三郎継承。 神社への奉納品や石蔵の彫り物を中心に石の彫刻家として活躍。
2008年(平成20年)	中川石材四代目中川洋継承。

### ◆四代目中川洋略歴

1997年	金沢市民芸術村シンボルモニュメント制作。 翌年金沢市民芸術村はグッドデザイン大賞を受賞。(石川県金沢市)
1998年～ 1998年	金沢市民芸術村「石川の石を彫ろう！」ワークショップ講師。(石川県金沢市)
1999年～2001年	第32回現代美術選抜展。(文化庁)
2000年	全国青年石材連絡協議会広報情報担当理事。
2001年	ベラクルス州立庭園美術館企画展招待制作。作品設置。(メキシコ)
2002年～2005年	「夢緑いしかわ」ガーデニングコンクール政令指定都市内オブジェ制作施工管理。
2002年	日本石材産業協会広報委員会副委員長。
2002年～2008年	世界遺産記念フエ国際彫刻シンポジウム招待制作。(ベトナム)
2003年	辰口CC館能美市博物館野焼きワークショップ講師。(石川県能美市)
2005年	ニュールンベルグ国際見本市。日本石材産業協会展示場にて制作実演。(ドイツ)
2006年	メキシコベラクルス州ハラパ市にてグループ展を企画。
2007年	世界遺産記念ホイアン国際彫刻シンポジウム招待制作。(ベトナム)
2007年	石川県石材組合連合会能登地震復旧支援事業。能美市石材組合能登地震対策委員長。
2007年～2010年	日本石材産業協会総会ワークショップ「能登地震現地報告」講師。
2008年	国指定重要文化財金沢城河北門復元工事石工事県組合代表主任技術者。
2009年	日本石材産業協会総会ワークショップ「支援活動とお墓の耐震」講師。
2010年	第一回日本石塔展覧会にて優秀賞。
2011年	寧越国際現代美術館(韓国)にて招待制作。
2012年	「加賀の千代女」ゆかり聖興寺鐘楼(国指定文化財)石垣修復工事石垣設計。(石川県白山市) 第二回日本石塔展覧会にて入賞。



## 8. 知的資産経営報告書とは

### 中小企業診断士 佐々木 経司

当社の知的資産の全てが代表に由来しております。これは、代表が職人として個のインスピレーションを重要視していることと関係しております。誠実さをもって、ご遺族様に個人との喜びを共感していただく、それをみて代表も喜びを感じる。このミラーニューロンの発想が基本にあって、そのために代表はインスピレーションを生じさせます。職人には無く職人にあるもの～ゴールを目指して全てを総動員すること、インスピレーション～が、当社の知的資産の連鎖であり、それを可能とする職人は当社に代表しかおりません。

今後は、「職人」育成方法を業界としての構造資産とすることに期待します。代表が示した「職人」のノウハウは、石材業界だけでなく、日本経済を牽引するリーダーにも必要と考えられます。経済活動には合理的な要素が必要であることは当たり前のことですが、その合理的要素を活用するためのイノベーションを生じさせるのは「職人」と考えられます。手始めに石材業界で構造資産化したのち、伝統的工芸品産業への応用、さらには多くの産業へ応用させ、日本に「産業職人」の育成システムが構築されることに大きな期待を寄せたいです。

代表の今後の益々のご活躍を祈念いたします。

### 行政書士 勝尾 太一

支援先企業は、創業百年を超える石屋である。墓石を取り扱う一方で代々彫刻家として活躍してきました。事業の3本柱である「建築・インテリア」、「墓石の製造」、「他社からの外注」は概ね同じ比率で推移しており、それぞれ特徴的な事業がバランスよく行われております。近時、石を取り扱う産業を取り巻く状況は、他の多くの産業と同じく中国からの安価な原材料や加工済みの製品が輸入されていることが現状となっております。その様な中において、中川石材では石にこだわりを持ち、加工技術に熟達するのみならず、「職人」としての自負をもって仕事に取り組んでいることが際だった特徴といえます。四代目となる中川洋氏が有する理念とその背後にあるお墓に関する深い造詣、直接・間接に事業に関係する周辺の知識の豊富さは、特筆に値します。代々受け継がれてきた石製品・作品の製造、製作にどのように取り組むかという無形のモノは、習得することにより身につける経験や知識を補ってなお余りある成果をもたらしております。まさに「職人」の仕事にほかなりません。

中川石材の仕事は、いわゆる合理主義の枠に当てはめることができないもので、構造資産として保持することは困難です。構造資産、関係資産が最小限であることに対して、人的資産は最大にまで高められているといえます。技術の習得についても、加工の工程や難易度ごとに区分してこれを順次学んでいく「合理的」な形で行われるのではなく、製造、製作しようとする製品、作品を仕上げるために工程の中で必要な技術を身につけていくなど、徹底した考え方を持っております。当代の仕事は次代において、そのまま引き継ぐことが必ずしも重要ではなく、各世代、各職人が発想力をかき立て、製品、作品に向かい合うことにより、それぞれの感性で仕事を完成させる。

職人に備わった様々なノウハウを構造資産化することは中川石材の理念に合致しえないのかもしれませんが、この職人氣質を代々貫くことこそが、構造資産として評価される資産と考えることもできるのではないのでしょうか。中川石材さまの今後ますますの健闘に期待いたします。

### 弁理士 横井 敏弘

中川石材(以下、当社)は、石工職人として唯一無二の存在です。これは当社代表個人にその多くを負っています。

当社代表が持っているものとして、彫刻家としてのインスピレーション、宗教的・歴史的な知識、石工や石材に関する専門的知見などが挙げられます。宗教的・歴史的な知識は、文献的知識だけでなく、多数の歴史的な作品を実際に見てまわり、歴史的な作品の修理に携わることなどにより得られたものです。また、石工や石材に関する知識は、人的ネットワークを介して得られた情報や、石材加工に関する多くの実験や「遊び」を通して自ら見出したものです。その他に、身体感覚、地域や顧客のニーズを感じとる高い感性、彫刻家としての美意識などもあります。

これらは、特許、意匠、商標、著作権、ノウハウなどの知的財産権制度の枠組みの中で議論できるものではありません。しかしながら、当社の唯一性は担保されております。

当社代表の唯一性が、体験の共有などにより次代に受け継がれ、さらに発展していくことを期待しております。